

【第三章:飛鳥時代】

【豪族の対立】

①蘇我氏の活躍

蘇我氏が渡来人の新しい知識や技術を活用、仏教の導入に賛成

→蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす(仏教の導入に反対)

→対立する崇峻天皇を暗殺し、**推古天皇を即位**させる

②聖徳太子(厩戸皇子)の登場

聖徳太子:推古天皇の甥

摂政として蘇我馬子と協力→仏教を積極的に導入
天皇を中心とする政治を目指す

【聖徳太子の政治】

①**冠位十二階** :**家柄にとらわれず、能力や功績のある人材の登用**

②**十七条の憲法** :**役人の心構え**

③**遣隋使の派遣** :中国の王朝「隋」の進んだ制度や文化を取り入れるため、**607年に小野妹子らを遣隋使として派遣**
→今までと違い、**対等な立場を主張**

【飛鳥文化】

特徴：日本で最初の仏教文化

①建築物

法隆寺：世界最古の木造建築

世界文化遺産に登録

聖徳太子が建てたと伝えられる

②彫刻

法隆寺釈迦三尊像

③工芸

法隆寺玉虫厨子

【天皇中心の国づくり】

①東アジアの状況

時期	できごと
6世紀	隋 が中国を統一 律令(法律)を定め、人々を戸籍に登録
7世紀前半～	隋がほろび、 唐 が建国 唐は律令の整備を進める。 日本は唐から制度や文化を学ぶために 遣唐使 を派遣
7世紀半ば～	唐が高句麗を攻撃

②大化の改新:645年

(中心人物): **中大兄皇子** and **中臣鎌足** (のちの藤原鎌足)

内容: 蘇我氏による豪族中心の政治を打倒! **天皇中心の政治を行うため**、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒す

結果)

1) **天皇中心の政治を行う**

2) **公地公民**: 土地と人民は天皇が直接支配するしくみ

③ 白村江の戦い: 663 年

朝鮮半島で唐・新羅が手を結び、勢力を広げる
→日本は百済に援軍を送るが唐・新羅に敗北
→朝廷は唐・新羅からの侵攻に備え守りを強化
→中大兄皇子が天智天皇に即位

④ 壬申の乱: 672 年

天智天皇(中大兄皇子)のあとつぎ争い

○大海人皇子(弟) vs 大友皇子 ✕

→勝利した大海人皇子が天武天皇として即位: 天皇を中心とする国づくりを目指す

⑤ 694 年 藤原京遷都: 初の本格的な都

→持統天皇(天武天皇の妻)の時代に完成